

# Abstract

AROMA RESEARCH No.75(Vol.19 No.3)

タイトル 香り物質ヒノキチオールによる亜鉛錯体, その糖尿病予防・改善効果について

名前 内藤行喜、吉川 豊、安井裕之

---

## <要旨>

天然の香り物質であるヒノキチオールと遷移金属の関係は歴史的に古く、ヒノキチオールが発見された1900年代まで遡ることが出来る。最近でも、ヒノキチオールと鉄イオンの錯体による最先端の鉄補給療法が報告されている。一方、鉄と同じく生体必須の金属元素である「亜鉛: Zn」は、予てより低糖尿病作用を有することが知られている。著者らは、Znの生体作用を高めることを目的とし、低分子の亜鉛化合物による創薬研究を行っている。上記のヒノキチオールを用いた補給療法の概念は、配位化学の理論に基づけばZn補給にも転用できるものである。今回、糖尿病を治療する可能性を秘めた「ヒノキチオール-Zn錯体」の基礎研究を紹介する。

<キーワード> ヒノキチオール、亜鉛錯体、抗糖尿病作用、インスリン抵抗性改善、膵臓ランゲルハンス島保護